

令和6年度 日向市立大王谷学園 自己評価及び学校関係者評価

1 学校経営理念 ○ 4つの幸せ 児童生徒の幸せ：この学校に行って良かった 保護者の幸せ：この学校に行かせて良かった 学園の幸せ：この学校の卒業生がいて良かった 職員の幸せ：この学校で働けて良かった	2 学校の教育目標 『一人前の社会人・職業人・地域人・家庭人の育成』	3 目指す児童・生徒像 「自立・貢献」できる児童生徒
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------	------------------------------------------

【評価基準 4段階評価 4…期待以上 3…期待通り 2…やや期待を下回る 1…改善を要する】

重点指導項目	主な取組	評価内容及び結果	自己評価	結果分析及び対応策	委員評価	学校運営協議会での意見
1 楽しい学校	○ 児童生徒のがんばりを認め、称賛する取組 ○ 児童生徒の活動の自主的運営への支援 ○ 諸行事の企画運営への参画	【楽しい学校】 小学生 学校がたのしい。 3.61 中学生 3.27 保護者 楽しく学校に通っている。 3.39 職員 仕事が充実している。 3.38	3.41	【分析】 ・全体的に高い評価である。中学生の評価がやや低いのは受験、部活、人間関係等、思春期に伴う悩みが多い時期と考える。 【対応策】 ・個に応じた指導を引き続き実施していく。 ・認め、称賛する機会を増やす。	3.29	・中学生は勉強だけでなく友人関係にも大きな影響がある。 ・不登校の生徒は、小学校から継続しているか等、対応が気になる。 ・教員も含めて高い数値であり、継続して楽しいと思える学校づくりをお願いしたい。 ・予定された行事が開催され、子どもにとって楽しく過ごせる学び舎であると感じる。
2 学力向上	○ 分かる授業と指導の工夫 ○ はげまし隊や花まる先生の活用 ○ 家庭学習の充実	【学力向上】 小学生 授業が分かる。 3.41 中学生 3.03 保護者 家庭で学習ができています。 2.93 職員 よりよい授業を目指して工夫改善している。 3.40	3.19	【分析】 ・「わかる・できる」授業は実践できている。 ・家庭学習の取組に課題がある。 【対応策】 ・各種検査結果の分析をし、授業改善に取り組む。 ・家庭学習のあり方については検討し、年度当初に資料を配付する。	3.00	・勉強が難しくなると、「分からない」ことが増え、勉強がいやになってくる。 ・児童生徒、保護者、職員の評価に差があるのは自宅に関係があるのか、しっかり分析し対応の検討が必要である。 ・苦手な内容の復習や得意な内容の学びになかなか落とし込めていないと感じる。
3 あいさつ・返事	○ 児童会・生徒会活動の充実 ○ 家庭・地域との共通理解・共通実践 ○ 常時指導の充実	【あいさつ・返事】 小学生 あいさつや返事、会釈ができています。 3.39 中学生 3.48 保護者 お子様は、あいさつや返事、会釈ができています。 3.27 職員 あいさつや返事ができるよう指導している。 3.34	3.37	【分析】 ・全体的にできている。 ・小学生より中学生の方がよい。 【対応策】 ・大人がまず手本を示す。 ・あいさつが上手な児童生徒を称賛する。 ・あいさつの必要性等を子どもに理解させる。	2.86	・朝の子どもの顔に元気がないように思う。 ・中学生の方が小学生より積極的にあいさつ、返事でできおり、前を見て登校している。 ・学校訪問時、元気な挨拶をしてくれる生徒が多い。職員も同じである。 ・自ら進んでのあいさつができるためにも、大人(家庭と地域)が見本を見せる。 ・恥ずかしさやカッコよさをはき違えている場面をみる。
4 自立・貢献	○ 道徳教育の充実 ○ 当番・係活動や委員会活動の充実 ○ 家庭・地域との連携	【自立・貢献】 小学生 学校の授業や清掃で準備や片付けを自分でできている。 3.54 中学生 3.53 小学生 学校で任された活動をきちんとできている。 3.50 中学生 3.51 保護者 お子様は、ご家庭で自分の役割を果たしている。 3.13 職員 児童生徒が役割を果たすよう指導している。 3.34	3.43	【分析】 ・学校ではできているが家庭がもう一歩である。 【対応策】 ・今後も子どもの心に響く道徳教育を実践する。 ・諸活動等において、やりがいや達成感を味和うことができるよう工夫改善に取り組む。	3.00	・自分から行動できるようになってほしい。率先してできているか疑問である。 ・相手のこと、やるべきことは何かを考えると自ずと行動できることが分かんと思う。 ・自宅では甘えが出るので、保護者の点数がやや低くなるのは予想できる。 ・なぜ必要なのか、気づききっかけや意義を伝えることが重要だと感じる。
5 キャリア教育	○ ねらいや学びのつながりを意識した教育活動の展開 ○ 地域人材の活用 ○ 体験活動の充実	【キャリア教育】 小学生 学習(体験や講話等)をととして、職業や働くこと、地域のすることについて考えることができています。 3.32 中学生 3.14 保護者 お子様は、夢や目標をもっている。 2.93 職員 将来のことを考えさせるようなキャリア教育が実践できた。 3.15 地域人材の活用を図ることができた。 3.08	3.12	【分析】 ・地域人材の活用や体験活動は実施しているが、子ども意識を高めるまでには至っていない。 【対応策】 ・夢や目標をもたせ、達成につながる教育活動の工夫改善を図る。 ・子どもの実態に応じた活動の工夫を図る。	3.29	・初等部からのキャリア教育に疑問があり、再度、人を思いやれる心をもつ“福祉授業”充実させてほしい。 ・小学校高学年からキャリア教育を工夫し、子どもの意欲向上にあたってもらいたい。地域の方々を活用してもらいたい。 ・よのなか挑戦等、積極的に取り組まれている。 ・キャリアフェスを継続してよりよいものにアップデートしていきたい。
6 規範意識の醸成	○ 時と場に応じた行動規範の徹底	【規範意識の醸成】 小学生 きまり(ルール)を守ることの大切さに気づくこと 3.61 中学生 ができている。 3.51 小学生 時と場に応じた態度(マナー)の大切さに気づくこと 3.57 中学生 とができています。 3.65 小学生 礼儀(エチケット)の大切さに気づくことができている。 3.60 中学生 3.67 職員 ルール(規律)、マナー(態度)、エチケット(礼儀)の力を高めるような指導ができた。 3.15	3.54	【分析】 ・子どもと職員の意識にやや差がある。 【対応策】 ・ルール、マナー、エチケットの意味と必要性を子ども自らに理解させ、継続して規範意識の醸成に努める。	3.00	・社会生活をする上で大切なことである。“自分がよければよい”との考えが出ないことを望む。 ・学童保育でルール、マナー、状況を見通した関り方等、個別や全体で話し合うことは多い。 ・教員の点数がやや気になるが、厳しく点数化した結果だと考える。仕事中でのオン、オフを工夫していただけたらと思う。 ・個性の尊重とルール遵守の重要性をしっかりと分けて伝える必要がある
7 コミュニティ・スクールの推進	○ 学校運営協議会の充実 ○ 児童生徒への地域での行事・活動への参加啓発 ○ 学校での活動等の情報発信	【コミュニティ・スクールの推進】 保護者 学校は、情報の発信を行っている。 3.17 職員 学校の情報を地域や保護者に発信することができた。 3.11	3.14	【分析】 ・例年より比べて情報発信は行うことができています。 【対応策】 ・マチコミメールの活用、ホームページの更新、学園便りの定期発行を引き続き行う。	3.14	・もっともっと地域と対話の場を増やす。 ・区に入らず、育成会もまともに機能していない気がしている。 ・情報は発信して反応を見る。そして、対応をする。 ・情報発信は学校と保護者をつなぐ大別な役割の一つと考える。無理のない範囲で今後も発信してもらえればと考える。
8 小中一貫校	○ 「大王谷学園 グランドデザイン」の7つの重点事項を意識した教育活動の展開 ○ 「当事者意識」と「相手意識」をもった業務遂行	【小中一貫校】 職員 小中一貫校としての取組ができた。 2.47	2.47	【分析】 ・小中一貫校としての取組について、小中の職員で検討する機会が少なかった。 【対応策】 ・本年度は職員の合同研修会や児童生徒の交流活動を新たに実施したが、引き続き実態に応じた小中一貫に関する教育活動を行っていく。 ・小中の職員合同で検討会を設置する。	2.14	・全体のステップアップが見られていない。学年ごとにチェックをし、9年生の評価で“オール4”を目指してほしい。 ・一貫校として、小中合同でどんな取組ができるかを考えていかなければいけない。 ・行事を一緒にすることだけではなく、教員同士の繋がりも工夫できるとよいと感じる。 ・同じ生徒を持ち上げるメリットを教員だけでなく、PTAも何か作れないか？ ・生徒のカリキュラムで一貫校の魅力を感じる機会が少ないし、先生同士の交流も少ないと感じる。